



vol.4

# トルコの饴玉

tanka magazine

# CONTENT

月々短歌 p2

## 連作

「フセ君」中山俊一 p4

「ここはばらいそ」小暮朱 p8

しりとり短歌 p12

著者情報 p13

月々短歌

蝸牛の旅は退屈どこまでも家路を背負う悲しみの雨

雨の音聞いたか君が太陽だ僕をこんな一人にさせて

フセ君

中山俊一

無茶苦茶に破いた就活本きみが夢破れても僕らの一枚

友人の頭を丸めど夢遠く「これからだね」とニット帽を買う

予報では雪になれると告げられた雨たちもまだ降り続けている

何者にもなれずに足掻く日々のなかカラオケ店員役を演じる

「お前の足臭いな」「お前の足も臭い」シックスナインの形で寝ながら

俺たちは違反速度で駆け抜けた。それが教習コースと知らずに

灰色の空を見ていた電線に吊されている笑える風を

男には認めちゃならぬ人がいて紫陽花通りを傘もささずに

出来の良い留守電入れておいたから聞いたらどうか電話を下さい

そんなもの捨てろよお前を苦しめた以下同文の表彰状を

羊毛は暖かいけど捨てなくちゃならない今日も人型の夢

阿弥陀籤おりてくように幾つもの生き方を捨て今日を生き抜く

「やりたいことばかりじゃ駄目だ。大人だし」お前の演技はやっぱり下手だ

葉桜が頷くように揺れていた似合わぬスーツの皺を伸ばして

「汚れた血」酔っては駆ける渋谷駅飛べぬお前の代走になれ



こころはぱらいそ

小暮朱

幸せって油まみれで少しきたないおやすみなさいで出る定食屋

メンヘラもビッチも愛すよ娯楽映画と探偵事務所のポスターたちが

Y字路、もうこれきりですねがお似合いの、幾度のわたし、幾度のあなた

店名を英語に変えて繁殖する呑み屋踵をつけて生きてく

境内からペルシャ猫でるいまちょうど許されている膝小僧たち

幼虫に生まれ変わるくらいはする奔放な女はするよするのよ

健やかな標語の前でジャケットが揺れてるたびに謝っている

海の匂いするでしょ言ったら信じてもうなにをおいても猛烈なほど

どうやって開業手続き踏んだのか謎な店があるここはぱらいそ

私もうとめどもなくもうだらしないことがしたいの国道沿いで

うすい爪かかった跡を勲章に木壁連なるデイズニーシール

月のあることおもいだしきのくるうこともわすれてみつめつづけた

ここまでの罪呑み下すパイナプルジュース100円天国にて

ペガサスの生まれ変わりの少年ら翔ける野を地をファミマの脇を

悠久のきせるが始まりそうな予感ぼくはここだよ見つけにおいで

DATE

6月

TITLE

しりとり短歌

中山

会おうね北千住駅のローソンの駐車場の輪留めの隅で

小暮

隅でのばす舌先に蛇<sup>あぶ</sup>優しい人の世界は残酷いつだってそう

中山

いつだってそうきみんがねおってるときにかぎって UFO はくる

小暮


くる時はいつもきまって羽をつけ摘ませてわらう君はイカロス

中山

イカロスの水死体が空の青海のあをにも染まずただよふ

# トルコの飴玉 vol. 4

発行日 平成 27 年 6 月 15 日

 Turkish\_candy\_



短歌

中山 俊一

 poseidon\_29

小暮 朱

 lululu114

写真/デザイン

吉田幸之助

 ysdkns